

共に歩み、次代の岡崎を支える

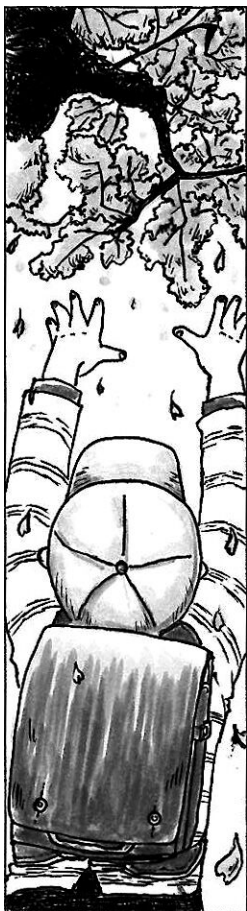


岡崎市副市長
鈴木 晃 氏

桜の便りとともに、新しい年度が始まりました。真新しいランドセルや、少し大きめの制服に身を包んだ子どもたちの姿を目にするたび、教室で温かく迎えてくださる先生方、そして地域で子どもたちを見守る保護者や住民の皆様の存在が、いかにありがたいものかとしみじみと感じ入る季節です。

本市は今年、市制施行百十周年、旧額田町との合併二十周年という大きな節目を迎えました。日々市政に携わる中で、私が実感するのは、岡崎市の根底には常に「人を育てる」という揺るぎない精神が流れているということです。歴史と豊かな自然に恵まれたこの地には、先人が繋いできた「学び」の足跡と、地域全体で子どもたちを育む温かい風土が確かに息づいています。

正解のない問いに向き合う、これからの時代、子どもたちが未来を切り拓くには、自ら考え、他者と対話



する力が欠かせません。一人ひとりに寄り添う教育現場の営みは、まさに岡崎の未来の「種」をまき、大きな木へと育てる尊いお仕事です。同時に、子どもたちの成長は家庭や地域との関わりがあつてこそ実現します。学校、家庭、地域が手を取り合い、「社会総がかり」で教育を進めることが、今後さらに重要になってまいります。

一方で、複雑化する教育現場を支える先生方の負担が大きいかも、私は重く受け止めております。先生方がやりがいを感じ、心身ともに安心して子どもたちと向き合える環境を整えることこそが、行政の役割で

す。現場の熱意がしっかりと形になるよう、全力で下支えしていく所存です。

人を育てることは、まちを育てることでもあります。「住んで快適・楽しいまち」、そんな「夢ある新しい岡崎」の実現は、学校、家庭、地域、行政が共に歩む教育の基盤から始まります。この節目の年を未来への確かな一歩とするため、現場の声を大切に職務に励んでまいります。新しい一年が、子どもたちと本市の教育に関わるすべての人にとって実り多きものとなることを、心より願っております。

(すずき あきら)

教育随想



令和8年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎市副市長 鈴木 晃 氏	
この人に聞く……………	2
表具師 大高 一晃 氏	
羅針盤……………	2
南中学校 校長 岡 秀之	
ふれあい……………	3
藤川小学校 教諭 水鳥 綾	
特集……………	4
令和8年度 岡崎の教育	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
芭蕉句碑の前で (昭和5年)	
この本を……………	8



日本文化を大切にする心

表具師 大高 一晃氏

岡崎の地で九十年以上続く表具店の三代目。でんぶんのりをを用いた伝統的な技法に信念をもち、数多くの価値ある作品を修復してきた。表具師として働き続ける思いについて、大高さんに話を伺った。

—表具師はどのような仕事ですか—
表具とは、紙や布を張って仕立てられた掛軸やふすま、額装などのことです。表具師は、和紙とのりを使い、表具を美しく仕立てたり修復したりします。古いふすまは、時間が経つと、しみや破損が生じます。ある寺から依頼を受け、十二枚のふすまを修復した際には、熱を与えてでんぶんのりを溶かし、水で湿らせながら破損した箇所を一枚ずつはがして丁寧に直しました。完成には二年

かかりました。価値ある作品に直接触れ、時代を超えて自らの手で再生できることに魅力を感じ、表具師として四十三年間働いています。
—表具師として働く中で、課題と感ずることは何ですか—

生活様式が変わり、和室のない家が増える中で、表具師の仕事は年々少なくなっています。昔は当たり前であった掛軸やふすま、障子が、日常の風景から静かに姿を消しつつあります。日本の伝統文化である表具を、日本でもっと使わないと、どんどん廃れてしまいます。私は、より多くの人々に伝統的な日本文化について知ってもらうために、展覧会に掛軸や屏風などを出展したり、会場で表装の実演をしたりしています。また、おがき匠の会に入会し、多様な業種の職人や作家と交流することで、つながりを広げています。岡崎で暮らす人々が、日本の伝統文化の豊かさに改めて気付き、日常の中に掛軸やふすま、障子を少しでも取り入れてほしいと思っています。
—仕事をやる上で大切にしていることはありますか—

今ある作品を数百年先も守り続けるために、伝統的な技法を大切にすることです。現在、価格を抑えるため、作品の貼り付けに化学薬品を使用する店が増えていますが、化学薬品は再度修復するときに作品を傷つけてしまうことがあります。そのた

め、私はでんぶんのりを使うことに信念をもち、昔と何一つ変わらない技法で作品を修復しています。でんぶんのりを用いた修復には千年以上の歴史があり、作品がどのように変化していくのか分かっていません。間違いなく百年後も二百年後も修復することができません。依頼を受けた貴重な作品を守り、未来の職人が作業しやすいように修復しています。

—今後の展望を聞かせてください—
昔ながらの技法を守り、歴史が息づく岡崎の街に住む人々に日本文化のよさに触れる機会をつくりたいと思っています。以前、市内の小中学校で、書き初め作品の表装の仕方について指導しました。自分の作品を表装するまでが作品作りであり、それにより、自分の作品を大切にすることが生まれます。書道の授業だけでなく、表装の文化に触れる機会を設けることで、子供たちの伝統的な日本文化を大切にすることを育てたいと考えています。

表具は、日本の大切な文化です。伝統的な技法を通して日本文化の魅力を地域に広めたいと思います。



氏名 おおたか かずあき
生年月日 昭和三十九年
七月二十八日
住所 岡崎市康生通西



学びの姿勢

南中学校

校長 岡 秀之

教師は、子供からさまざまな質問を受ける。授業に関すること、人間関係に関すること、進路選択に関すること等々である。中学生ともなれば、時に返答に困るような深い質問もある。私には、「なぜ勉強をするのか」という質問に、即答できなかった苦い経験がある。

教育基本法第九条に示されているように、教員は絶えず研究と修養に励まなければならない。そのために校内外で様々な研修会が行われているわけだが、日々の授業や子供との関わりからでも、学ぶことは多い。

発言の多い授業において、挙手をしていない子供の評価はいかほどか。では、挙手はしないが、ノートに自分の考えを記している子供の評価はいかほどか。挙手が目的の授業であれば、挙手をしない子供の評価は難しい。けれども、挙手ができない子供



アゲハチョウがつないでくれた

藤川小学校

教諭 水鳥 綾

「私にも幼虫を分けてください。」
四年生のAさんが私の教室へやってきた。二年前に担任した児童だ。

今年度、三年生の担任になり、アゲハチョウの卵を校庭の木から集めては、教室で育てた。たくさん孵化したので、家で虫を飼育している四年生の児童に何匹か家で育ててもらふことになった。Aさんが来たのは、児童に幼虫を渡した翌日だった。

Aさんは生き物が好きだ。生活科の学習でダンゴムシを育てたときは、毎日欠かさず観察を続けた。そして、なかなか見ることのできない脱皮の瞬間に立ち会うことができた。

脱皮した翌日、朝一番にAさんが、「朝、脱皮したんだよ。みんなに見せたかったけれど、すぐに皮が見えなくなっちゃったんだよ。」と目を輝かせながら話してくれた。

ダンゴムシを自然に帰すときにはとても残念がり、

「帰すの寂しいから嫌だな。」

うつむきながらつぶやいた。

「きつと大切にお世話をしてくれたAさんが大好きだから、自然に帰るのは寂しいだろうね。」

と声をかけて、一緒に花壇へ放した、Aさんとの懐かしい思い出がふとよみがえってきた。

私のところに来たAさんに、

「クラスのみんなで卵からかえした幼虫だから、大切に育てられますか。」と聞くと、

「虫かごもあるし、お母さんにも育ててもいいか聞いてきた。大切に育てるから、ください。」

Aさんは真剣な表情で大切に育てることを約束してくれた。二匹の小さな幼虫を渡すと、一瞬で笑顔になり、「大切に育てます。」

と言って、ケースの中の幼虫をじつと見つめながら、大切そうに教室へ持ち帰った。

しばらくして、Aさんに、

「最近どう。大きくなった。」と聞くと

「餌をいっぱい食べるからすごく大きくなったよ。ふんもすごい。」

とうれしそうに幼虫の成長を語ってくれた。それから、校内で会うたびに、幼虫の様子を報告し合った。

「先生のクラスの幼虫はほとんどさなぎになったよ。」

「私の幼虫は大きいのがさなぎになったよ。小さいのも多分、今日にはなると思うな。」

報告のたびに幼虫の小さな変化を、必ず笑顔で教えてくれた。

そして、私のクラスのアゲハチョウが成虫になりだした頃、Aさんが手紙を持ってきてくれた。

「先生、これあげます。」

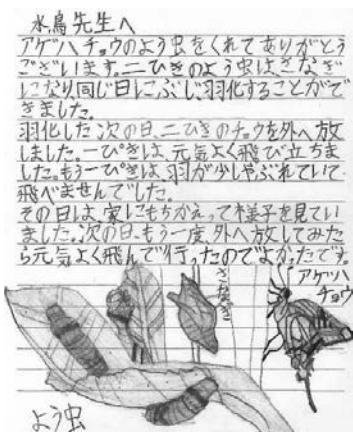
それだけ言うと、Aさんは自分の教室へさつと戻ってしまった。手紙には、Aさんの幼虫が二匹とも無事に成長して飛び立ったことが、絵と一緒に書かれていた。私はAさんに返事を書いた。

「Aさんに幼虫を育ててもらえてよかったですと思っています。ありがとうございます。」

言葉で気持ち伝えてくれたAさんに、私も言葉で伝えたいと思い、Aさんに手紙を渡した。

「先生、手紙ありがとう。」

お礼を言いに来たAさんのはにかんだ表情が今でも忘れられない。



と、考えることを避けたがる子供との評価は同じではないはずだ。子供の多様化によって、指導方法が多岐にわたっている現在だからこそ、個別最適な学びが求められている。その観点から考えると、発言も書くことも表現方法の一つだといえる。

また、ハイリー・センシティブ・チャイルドと呼ばれる繊細な子供がいる。中には「顔は笑っているのに、心で泣いている」といった子供もいて、教師の経験だけでは計り知れない。子供の本心に迫るためには、相手を多面的に捉えることが大切だと考えるのではないだろうか。

私が教師になった頃と比べて、ずいぶん子供が変わったように思う。であるならば、学校の授業も子供との関わり方も変わっていくのは当然であろう。そのためには教師が常にアップデートしていく必要がある。

さらには、自分にはない価値観を学び、より多面的な捉え方をしていく必要がある。学びの姿勢が変われば、どこからでも、何からでも学ぶことができる。

「なぜ勉強をするのか」という質問に対して、後日、子供に「人生を豊かにするため」と答えた。理科の学びも、人間関係づくりも、進路選択も全てが子供の人生につながっていると考えたからだ。子供から学んだ教師としての根幹の部分である。

と、考えることを避けたがる子供との評価は同じではないはずだ。子供の多様化によって、指導方法が多岐にわたっている現在だからこそ、個別最適な学びが求められている。その観点から考えると、発言も書くことも表現方法の一つだといえる。

令和8年度 岡崎の教育



「私がつらかった時、先生は豆粒くらい小さな字で日記が真っ赤になるほど返事を書いてくださいましたね。一文一文に先生の優しさが詰まっていました。」

卒業式、舞台で振り返り、職員席に向かって涙を浮かべながら声を震わせる生徒。答辞の言葉に、会場がじんわり温かくなる。

岡崎の教育は、子供の幸せを願う教師の温かな心によって創られてきた。それこそが、岡崎の教育の不易であり、本質でもある。

岡崎の教育を支えるもの

【伝統】昭和三十二年、戦後の復興期に、当時の市長と教育長は理科教育の充実を願い、五年間で総額六百万円の科学教育振興費を投じる決断をした。当時の教員の初任給が約八千円だったことを考えると、強い決意が伺われる。

この取組を契機に本市の理科教育は大きく花開き、七十二回を数える理科作品展は、今も子供たちの探究心を育み続けている。また、「造形おかぎきつ子展」をはじめ、三世代が学びと感動を共有する教育活動が半世紀以上受け継がれてきた。

こうした先人たちの営みの積層こそが、子供の成長を支える誇るべき岡崎の伝統である。

【環境】本市は常に最先端の「環境」を整えてきた。いち早くタブレット端末を導入し、電子黒板は全教室に配備しつつある。世界トップレベルの高速ネットワーク「サイネット」

もある。これらのデジタル学習基盤は、主体的な学びを実現する大きな強みである。

また「学校が子供に適応する」という理念に基づきF組設置を進め、多様な背景をもつ子供が安心して過ごせるように市独自で支援員を配置している。「理念の浸透」を中心に据えた施策展開は全国から注目を集めるものとなっている。本市の「環境」は、子供を一番に考える理念の表れである。

【人づくり】岡崎の教育の魅力を高めるためには、教員の資質・能力の向上は欠かせない。「専門性・人間性・指導性」の一層の向上を目指して教員育成指標に基づく体系的な研修を実施している。

中核市である本市は研修権をもっており、伝統と風土を生かした研修を実施できることが最大の強みである。教科・領域指導員による学校訪問や、教職員同士が支え合う風土を生かしたOJTを推進している。また、夏季研修では、教員が主体的に研修を選択し、実践に直結する学びを深めている。

教育の今日的課題

今、社会は不確実性を増し、急速に変化している。子供たちは予測困難な時代を生きることになる。そのためには、変化を恐れるのではなく、変化を前向きに受けとめ、しなやかに自分の人生を舵取りできる力が求められる。

こうした時代の要請を受け、国で

は次期学習指導要領に向けた議論が白熱している。そこでは、改訂議論を貫く二つの方向性が示されている。

①「主体的・対話的で深い学び」の実装

②多様性の包摂

③実現可能性の確保

これらは、現行の学習指導要領を現場に真に浸透させていくためのものと理解することができる。

岡崎の教育が目指すもの

【多様性の包摂】単に少数派を受け入れるということではない。互いの違いを尊重し、対等に育ち合うことである。一人ひとりの歩幅で学び、仲間と関わり、違いから学び合う。その往還の中で、子どもの意欲は高まり、可能性は花開くはずである。

そして、教師は本気で伴走する者として、子供の声に耳を澄まし、真正面から向き合う。こうした時間は、ときに効率を犠牲にするかもしれない。しかし、対話と合意形成に時間をかける教育こそ、次の時代を生きる市民を育てることにつながると思っている。

【リアルな学びをデジタルが支える】義務教育段階において、子供たちにとって大切なのは、画面の向こうではなく、実物と実体験、そして子供同士により直接的な関わりである。デジタルは、多様な子供たちを前提に、そのリアルを広げ、深め、確かにするためにこそ使うものでな

ければならない。

本市が重んじるのは「リアルかデジタルか」の二者択一ではなく、リアルを中心に据えつつ、デジタルをいかに効果的に活用するかという設計である。そこには、教師の温かさ

と情熱、指導力は欠かせない。

【制度より理念】未来は、誰にも予測できない。しかし、変化の只中にあっても、制度をつくることを目的にしてしまつてはいけない。制度はあくまで手段であり、忘れてはならないのは理念や哲学である。

教育のあらゆる営みは、「何のために、それをを行うのか」という本質への問いに導かれるものである。

指導の重点

教育の目的は、教育基本法第一条にある「人格の完成」を目指すことにある。そして、学校教育に求められているものは、子供が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きていくための基礎となる資質・能力を育成すること、即ち、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図ることである。その原点には教師の「子供の幸せを願う強い思い」と「人間形成への情熱」がなければならぬ。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と学校とが協働し、信頼される教育の創造に努める。特に指導の重点を次の三点とする。○学ぶ楽しさを実感し、深く考え、

学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進

○命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進
○体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

令和八年度の重点努力目標

①「学び方改革」

子供に学びを委ねる授業づくりを進めるとともに、「リアルな学びをデジタルで支える」ことの具現化を図る。

・チーム学習を核とした授業改善を更に進める。
・子供に学びを委ねる授業における、ファシリテーターとしての教師の具体的な支援を明らかにする。

・学習指導と生徒指導の一体化を推進する。
・デジタル学習基盤を効果的に活用する授業のあり方を探る。

②「子供支援改革」

発達支持的生徒指導の考えやF組の理念をすべての教師に浸透させ、魅力ある学校づくりを推進する。

・F組担任会や支援員会を充実させ、F組やS組の更なる効果的運用を推進する。
・いのちの教育を推進し、温かい学校づくりをする。

・確かな子供理解のために、心理士やSSWなどの専門家と効果的に連携する。

・ストップ・ザ・いじめアクションプランのPDCAサイクルを確実に実施する。

・特別な支援が必要な児童生徒や外国人児童生徒への理解を深め、支援・指導を充実させる。

③「部活動改革」

部活動の教育的意義を継承しながら、地域展開を次の段階へ進め、安全で持続可能な部活動環境を整える。

・現職の教職員の兼職兼業による部活動指導員の確保を進める。
・地域ブロック部活動の平日の活動を可能にするための取組を強化する。

・全小学校に設置された学校運営協議会において、各校の部活動の今後のあり方について検討する。

④「新しい時代の学校デザイン2.0」

改革を更に進め、業務量の適切な管理を通して、教育の質の向上と持続可能な学校運営体制の構築を図る。

・研修を更に充実させ、高度専門職としての資質能力の向上を図る。
・四つのマネジメントの視点(組織、カリキュラム、タスク、タイム)で学校運営を見直し、時間外在校等時間の縮減を図りながら教育効果を最大化できるようにする。

子供の幸せを願い、ひたむきに努力を積み重ねる教師の情熱こそが、岡崎の教育の源泉である。令和八年度も、伝統を継承しつつ、情熱をもって変化に挑み続けることで、新たな岡崎の教育を創っていく。



●教育関係機関だより

◆岡崎市総合学習センター

岡崎市上地三丁目12-1

(☎五四一-二二五)

岡崎市総合学習センターは、一般利用できる体育室や多目的ホール、小ホール等を備えた施設である。同じ建物の中に、本市の教職員が利用できる教育研究所や、ハートピア岡崎(上地)がある。

○教育研究所

(☎八三二-七七〇)

岡崎市の教職員のための研究施設である。学校が教育アドバイザーや学校運営アドバイザーに相談したり、さまざまな教育関係資料を活用したりすることができる。

・教育図書室

八千三百冊以上の教育図書を所蔵している。また、学習指導案の閲覧、図書資料の貸出し、学会会等のDVD資料の視聴などができる。

◆教育相談センター

岡崎市竜美北二丁目6-1

教育相談センターには、三つの部門(教育相談部門、通所・支援部門、福祉の支援部門)が設けられている。

教育相談部門には「そよかぜ相談室」、通所・支援部門には長期欠席児童生徒校外フリースクール「ハートピア岡崎(竜美・上地)」がある。福祉的支援部門には、福祉や教育に精通したスクールソーシャルワーカーが配置されている。スクールソーシャルワーカーは、子供が置かれている環境や抱えている課題を踏まえ、関係機関との連携・調整や支援を行っている。

○そよかぜ相談室

(☎七一一-三〇二)

就学支援・特別支援教育、いじめや長期欠席等に関する支援をしている。相談をする場合は、電話予約後、臨床心理士や相談員と相談する。また発達障がい等の専門家(大学教授等)が巡回相談を実施している。

○ハートピア岡崎

・竜美(☎七一一-三〇七)

・上地(☎七一一-三〇二)

長期欠席や、その傾向のある子供が学校への復帰や社会的自立を目指して通所し、指導員やハートピア専属の臨床心理士による支援を受ける。通所については、学校を通して手続きを進める。



「教育相談センター」



「ハートピア岡崎(竜美・上地)」

◆子ども・若者総合相談センター(わかサポ)

岡崎市十王町二丁目9

(☎六四一-六六五)

子ども・若者総合相談センターは、不登校・ひきこもり・ニートなど、社会生活を営むうえでの困難を抱える若者の支援をしている。相談をする場合は、電話予約後、相談員との相談を行う。

◆日本語初期指導教室『希望』

岡崎市戸崎町野畔8-1

(プレクラス)

本市内に編入学、転入学してくる日本語教育を必要とする児童生徒は増加傾向にある。それに伴い、小学生(四・六年生)・中学生を対象とした日本語初期指導教室『希望』を開設している。プレクラスでは、学校生活

になかなか馴染めない日本語指導が必要な児童生徒が安心して日本の学校に通うことができるように、初期段階の日本語の習得や日本文化への適応を図ることを目指している。



「日本語初期指導教室『希望』」



「子ども・若者総合相談センター」

●表彰

◆第75回全国小・中学校作文コンクール

○中学校の部
文部科学大臣賞
竜海中 都築 紗奈

◆第71回青少年読書感想文全国コンクール

○小学校低学年の部 自由読書
毎日新聞社賞
本宿小 岡本 睦玄

◆第2回全国教室俳句コンテスト

みんなの俳句部門
最優秀俳句賞
矢作北中 吉永 泰翔

◆第46回全国中学校スケート大会

フィギュアスケート
シヨートプログラム
出場 東海中 丸山 喜生

◆二〇二五年度愛知県中学生バスケットボール新人大会

○男子の部
1位 岡崎葵城

◆第32回新聞切り抜き作品コンクール

○小学生の部
中日大賞
三島小 江間 桜子
優秀賞
三島小 伊藤 美香

◆第3回あいち食農教育表彰

最優秀賞(教育委員会賞)
下山小

◆令和7年度「家庭の日」

県民運動啓発ポスター
○生徒の部
入選
矢作北中 穴井陽菜乃

◆第53回人権を理解する作品コンクール

○標語の部
優秀賞
男川小 杉浦 壮汰



●期待の新任教員

令和八年度岡崎市小中学校新規採用教員は、一一六名(養護教諭・栄養教諭を含む)である。

なお、新任教員の学校への配置は、次のとおりである。

Table listing school assignments for new teachers. Columns include school names (e.g., 井田小学校, 廣幡小学校) and teacher names (e.g., 羽根田穂高, 堀夢女).

●期待の市任期付教員

●期待の新任事務職員

令和八年度の新任事務職員は五名で、配置は次のとおりである。

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

Table with 4 columns: 相談窓口, 電話番号, 相談受付日時, あいちこころのサポート相談(SNS). Includes contact info for Aichi City and Aichi Prefecture.



芭蕉句碑の前で (昭和5年)

写真提供：藤川小学校 杉浦 彰 氏

写真は、藤川宿にある芭蕉句碑の前で、藤川尋常小学校の児童を撮ったものである。学校が、昔から藤川宿とのつながりを大切にしてきたことが見て取れる一枚である。藤川小学校では、総合的な学習の時間を通して、まちづくり協議会の方々とともに、藤川宿の保存と町の発展に携わっている。そして、平成二十三年度の「むらさきまつり」より、六年生が学びを披露する場として、芭蕉句碑をはじめ七か所で、地域の遺構を観光客に紹介している。

地域の方からふるさとの魅力について学び、発信することで、子供たちは地域貢献を実感する。学校は、地域との連携を通して、子供たちの郷土愛を育んでいく。



・題
・各タイトルバック
・各タイトル
・カッター
・翔南中
・実松理沙
・字
・教育長
・安藤直哉
・浅井有紀
・細井雄介
・六ツ美北部小
・竜南中

扉の向こう側には、新学年での生活。「おはようございます。」と元氣よく扉を開く子がいれば、緊張した面持ちで、おそろおそろ開く子もいる。胸がどきどきするという感情は、新しい一年への期待の表れではないだろうか。子供たちの期待に応えられるような教師でありたいと銘肝し、今年度もスタートラインに立つ。

報告を重ねるAの表情を想像し、ほほえましく思う。生き物を大切に思う気持ちと共に、教師との関係も温かく深まっていったのであろう。理想の学級やより良い子供との関わり方を目指し奮闘する一年が始まる。ただ、子供にとってはいつまでも先生である。この先の未来につながる一年としていきたい。

とホツ

卯月



▲新しい出会いの瞬間を待つ教室 (城北中)

突き詰めてきた伝統的な表装の技能。和紙とでんぶんのりをを用いた匠の業で、数多くの価値ある作品を再生し、未来につないでいる。「伝統的な技法で作品を守り、日本文化の魅力を地域に広めたい」と願う大高さん。真剣な表情で表具と向き合い、今日も日本文化の魅力を地域に発信している。



*生成AIで世界はこう変わる 今井 翔太
SBクリエイティブ ￥900

心に残った一文

恐れているのはこの機械の知能が、人間の想像のはるか外にある脅威を持ち込んでくるという未来です。

さまざまな分野において、爆発的な勢いで生成AIの利用が全世界的に進む。私たちの生活は、もはや生成AIとは不可分なものとなった。

生成AIの教育利用においては、子供が答えのみを求め、思考を放棄する危険性が議論されることが多い。しかし、教育が生成AIから距離を置くことは、現実社会からの逃避でしかない。私たち教師は、目の前の世界で生きていく子供たちを、何とかしなくてはならないのだ。

生成AIを使いこなす側であり続ける子供を育て、未来の教室を豊かにするために、教師が学ぶことはまだまだ多い。

- *九相図をよむ 山本 聡美 ￥1,740
角川ソフィア文庫
 - *動物のひみつ アシュリー・ウォード ￥2,000
ダイヤモンド社
 - *イスラムの世界史 宮田 律 ￥1,950
中央公論新社
- 形埜小学校 内田 雅之